

学び愛インドネシア・ごみ銀行とコンポストの活用と普及

活動地域  インドネシア

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

環境問題解決提案 コンテスト	35校
SDGsリーダー合宿	68人
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	90%



新型コロナウイルス禍オンライン・SDGsリーダー合宿

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

- プロジェクトと現地の年度始めと常識の違い
- 活動2年目の後半に想定していなかったパンデミックが起り、渡航が制限されプロジェクトの実施が危ぶまれた

■ 工夫した点

長年現地で活動して築いた人脈を使い、新型コロナウイルス禍での協力体制の強化と現地スタッフとのSNSを駆使し対面からオンラインへの移行を早期に実現した。

課題

ごみ銀行が誕生し、全国的に広がりを見せているが、未だに利用者は一部の住民に限られている。またごみからリサイクル品を作っているが、新たな問題を引き起こしている。

目標

南タンゲラン市の市民の行動が環境指向型となり、同市が環境モデル都市に変貌する。

活動内容と成果

- 環境教育マルチステークホルダー委員会を3回実施し、プロジェクトを進めた
- 改訂した教本(コンポストとごみ銀行)を2,400冊印刷した
- 印刷した教本を市内公立12中学校に配布した
- 対面授業ができない状態なので、オンラインを通して中学生向けにオンラインで「コンポストとごみ銀行」の実践授業を実施した
- SDGsリーダー合宿をオンラインに変更し、68人が参加した
- 学んだ環境授業から環境問題解決提案コンテストを実施し、市内35校から生徒154人が応募した



教材開発のために各地のごみ銀行を取材

全助成期間の活動を振り返って

インドネシア・南タンゲラン市をインドネシアの環境教育の先端モデル地域とするため、ごみ銀行とコンポストの実践授業ができるように教材と器具の開発ができた。特にごみ銀行は、世界初で注目されたが市民の理解不足が目立っていた。今回、各地で様々な取組みが行われていることや分別したごみからコンポストを作る方法を学ぶ他、日本での不用品・ごみからビジネスを展開している事例を紹介することができた。



環境問題解決提案コンテスト応募作品

〒930-1313
富山県富山市中滝142-9
E-mail: sb930jp@yahoo.co.jp
HP: <http://www.baliwind.com/>



今後の展望

インドネシアでの教育・環境の活動が21年目を迎えた。2001年に策定されたMDGs(ミレニアム開発目標)からSDGs(持続可能な開発目標)となり地球上の「だれ一人取り残さない (leave no one behind)」が掲げられた。弊会はインドネシアでのリーディングNGOとしてSDGsに取り組み、活動を続けて行く計画である。